



## Kobe University Repository : Kernel

|                         |   |
|-------------------------|---|
| タイトル<br>Title           | <研究>経済的合理主義ノ基礎  |
| 著者<br>Author(s)         | 福田, 敬太郎   |
| 掲載誌・巻号・ページ<br>Citation  | 経済學商業學國民經濟雜誌,31(6):924-938  |
| 刊行日<br>Issue date       | 1921-12   |
| 資源タイプ<br>Resource Type  | Departmental Bulletin Paper / 紀要論文  |
| 版区分<br>Resource Version | publisher   |
| 権利<br>Rights            |   |
| DOI                     |   |
| URL                     | <a href="http://www.lib.kobe-u.ac.jp/handle_kernel/00053381">http://www.lib.kobe-u.ac.jp/handle_kernel/00053381</a> |

Create Date: 2017-12-18



## 經濟的合理主義ノ基礎

神戶高等商業學校講師 福田敬太郎  
商學士

既ニ第十三・四世紀ノ頃、伊太利ニ於テ近世産業生活ノ根本的方針ガ與ヘラレタ。卽チ Leonardo Pisano, Luca Pacioloノ名ヲ想起スル一二〇二年カラ一四九四年ヲ以テ所謂商工經營ノ創世期ト言ツテモヨイ。複式簿記ノ濫觴ノ重要サハ云フマデモナイコトデアルガ(註二)更ニ一般計算術ノ發達、時間空間ニ對スル數的正確感ノ進歩、從ツテ測量術、度量衡制ノ勃興、進ンデハ社會全體ノ數的觀察、卽チ其ノ後發展セシ政治算術、統計學ノ發端モ亦、當時ノ數學的諸學科ノ發達ト自然研究ノ精神ニ刺戟セラレテ現ハルルニ至ツタコトハ注目スベキコトデアル。茲ニ於テ、個々ノ取引ヲ計算的ニ、全企業ヲ體系的ニ經營スルトコロノ、近世産業生活ノ根底タル所謂經濟的合理主義ノ端緒ヲ第十三四世紀ノ伊太利ニ求メントスル試ミハ許サルル(註二)

然ラバ斯クノ如キ合理化ノ傾向ハ何ニ基イテ生ジタカ。其ノ解明ハ、言フマデモナク、心理學的・倫理學的・社會學的個別研究ノ結果ニ俟タナケレバナラナイガ、文化史的考察ニ從ツテ回顧スルトキニ、我々ノ思ヒハ過グル日六百年祭ヲ行ツタ Dante ニ至リ、彼ニ達シテ合理化の傾向ノ內面的基礎ニ觸レル。彼ニ由ツテ取扱ハレタ主題ハ人間デアリ、彼ノ詩ニハ大ナル世俗的關心ガ現ハレテ居ル。殊ニ神曲天國篇第三十三曲ニ於テ冥想ノ權化聖ベルナルドガマリアニ對シ詩人ノ爲ニ捧グル祈リコソハ實ニ豐カナル人間の執着心ヲ示シテ居ル。神ノ秘密ヲ眺メテ後尙ホモ彼ノ情意ヲ健カナラシメ給ヘ

ト願ツタ聖キ人ノ祈リハ、ヤガテ自我ニ醒メタ詩人自身ノ願ヒデアツタ。固ヨリ最後ニ神祕ニ接シテ彼ノ情意ハ崩ホレ、神ノ意志ト合致シテ、廻ル双輪ノ如ク、太陽ト諸星トヲ牽ユル愛ヲ廻ツタトハ言ヘ、其レヲ自我ノ否定破壞ト見ズシテ、神人ノ合一、自我ノ絶對的昂揚ト觀ル故ニ Dante ニホン近世的精神ノ發芽ヲ見ル(註三)。近世ヲ中世カラ分ツモノハ此ノ自我ヲ基トスル世俗の關心デアアル。而シテ此ノ世俗の關心ノ發展ガ經濟的合理主義ノ發展ヲ基礎付クル最根本的ノモノデアアル。Paciolo ノ背後ニ存スル Dante、精神ガ見抜カレテ初メテ近世的產業精神ガ捕捉サレタト云ヒ得ル。

斯クノ如ク、六百年ノ昔ニ遡ツテ、經濟的合理主義ノ本源ガ問題トセラルルノデアアルガ、我々ハ今眼界ヲ第十七世紀ノ英吉利ニ限ル、其處ニ現ハレタル經濟的合理主義ノ基礎ヲ考察シテ見ヤウト思フ蓋シ自我ヲ基トスル世俗の關心ガ成熟スル爲メニハ、宗教改革ト云フ一大轉機ヲ經ネバナラナカッタシ、經濟的合理主義ガ結實スル爲メニハ、初期資本主義ノ地盤ヲ求メネバナラナカッタ。然レバ屢々 Dante ト比較セラルル『清教徒ノ神曲』ノ(註四) 著者 Milton ヲ有スル第十七世紀ノ英吉利ハ、充分我々ノ考察ニ値スル。第十七世紀ノ英吉利ガ既ニ最近世ノ繪舞臺ニ出ル充分ナル準備ヲ整ヘテ居タコトハ、其レ以後二世紀間ノ大發展カラ推知シ得ルガ、一方 Dante ト Milton ノ比較ニ由ツテ大イニ明カニセラレ得ルコトデアアル。前者ニ於ケル單純ナル世俗の關心ハ後者ニ於ケル旺盛ナル世俗喜悅ニ達シタ。現世ニ何ラカノ積極的價值ヲ認メテ、職業生活ヲ倫理化セントスル努力ノ根據ハ『失樂園』ノ結句ヲ讀メバ判ル。(註五)

斯クシテ我々ノ興味ハ徐々ニ清教主義ニ集ツテ行ク。英國ニ於ケル宗教改革ハ、政治的色彩ノ極メテ

濃厚ナル、シカモ喜劇のナル序幕ヲ以テ開カレ(註六) 不思議ナル發展ノウチニ、猶太の宗教的色彩ノ極メテ濃厚ナル、シカモ悲劇的ナル收場ヲ以テ閉ヅル(註七)。Green ハ此ノ時期ノ後半ヲ『清教の英吉利』(Puritan England) トシテ詳細ニ描寫シテ居ル(註八)。女王 Elizabethノ朝、初メテ國教會ニ不一致ヲ表明セシ所謂『新教徒非國教者』(Protestant Nonconformists) ノ興起カラ、聖雄 Cromwell ノ護國職ノ消滅、Charles 二世ノ王政復古ニ至ルマデ約八十年間ヲ包ム時代ハ、最近世ノ英國民及純米國民ノ國民性ヲ形造ルニ必要ナル諸要素ヲ提供シタノデアル。

清教徒ハ民衆デアツタ。彼等ノ力ハヤガテ英國民衆ノ力デアツタ。又民衆ノ力ガ加ハルト共ニ清教主義ノ勢力ガ加ハツタ。彼等ノ信仰ト主義トハ新シク起ル産業的、民主的英國民ノ脊骨デアツタ。トヒ王政復古ニ由ツテ中斷ノ外姿ヲ呈シタトハ言ヘ、第十八世紀ノ英吉利ハ、メンヂストノ活躍ト共ニ、再ビ實質的ニ彼等ノ世界ト成ツタ。後ニ理神論的、自然法的世界觀ガ産業生活ニ浸ミ込マデハ清教主義の神觀ガ産業人ヲモ支配シ續ケタ。

Sombart ハ、詳細ナル論述ノ結果、大膽ニ「清教主義ハ猶太教主義デアル」ト論斷シテ居ル(註九)。我々ハ方法論上、歴史的概念タル『清教主義』、『猶太教主義』ノ兩者ヲ相等シトスルコトニ贊成シナイケレドモ、カルヴイン主義ヲ通ジテ猶太教の要素ガ第十七世紀ノ英國ニ豊カニ流レ込ダコトハ、幾多ノ事實ニ由ツテ確信セシメラレル。既ニ宗教改革ノ前後カラ廣ク猶太教ト基督教トノ交渉ガ開始セラレ、所謂『基督教的文藝復興』(Christian Renaissance) トシテ、古代猶太ノ研究ガ盛ンニ行ハレ、希伯來語ハ希臘語ヨリモ珍重セラレタ(註一〇)。降ツテ第十七世紀ニ於テハ猶太人ガ英吉利ニ於テ狂熱

的ナル歡迎ヲ享ケ、Cromwellノ如キ指導者達ノ宗教觀・人生觀ガ全ク舊約聖書のデアリ、一説教者 Nathanael Holmesハ、預言者ノ言葉ヲ字義通リニ解シ、自ライスラエルノ僕トシテ仕ヘルコトヲヨナキ望ミデアルト考ヘタ。公的生活モ私的生活モイスラエルノ色彩ヲ帯ビ、人々ハ其ノ身バレステイナニ在リト誤信シ得タホドデアル。即チ Jewsト自稱シタル Levellers 一派ハ、Thora (モーセノ五書ヲ指ス)ヲ以テ國法トナサントシ、又一士官ハ、Cromwellニ建言シテ、國會ヲ猶太ノ Sanhedrinニ模シテ七十人ノ員數カラ成リ立タシメントシタ。清教徒ハ、猶太族ガ信ズル如ク、神ノ特別ノ選民タルコトヲ自信シ、一切ノ生活行爲ガ宗教的ニ規律セラルルヤウニナツタ。茲ニ史家ノ所謂 English Hebraismガ嚴存スルコトハ疑フコトガ出來ス(註一一)。

然シ乍ラ以上ノ如キ單ナル外的類似カラ直チニ猶太教主義ト清教主義トニ内的關聯アリト推斷スルコトハ許サレナイ。我々ハ此ノ外的類似ニ暗示セラレテ居ルモノヲ積極的ニ探索スル任務ヲ有スル。抑々清教主義ト稱スルモノハ、Weberニ倣ツテ(註一二)、在家的禁欲思想ヲ有セル諸派、即チ第十七世紀ニ於ケルカルヴイン主義、獨逸ニ於ケルルーテル主義ノ地盤ニ育ツタ敬虔主義、敬虔主義ノ英米的典型タルメソディズム、和蘭カラ擴マツタ洗禮主義諸派ヲ指スコトヲ最モ正當ナリト考ヘルノデアルガ、我々ハ當面ノ問題ノ範圍ニ限定シテ、専ラ第十七世紀ノ英吉利ニ行ハレタカルヴイン主義ノミヲ吟味スルコトトスル。

Calvinノ神學並ニ其ノ世俗的理論ヲ茲ニ詳述スルコトハ許サレナイケレドモ、單ニ經濟學說ノ發達カラ見テモ或ヒハ利子論ニ於テ、或ヒハ貨幣論ニ於テ、或ヒハ信用論ニ於テ、重要ナルモノガアリ、

又國家理論社會理論ニ關シテモ注目スベキモノガ多クアルコトハ充分ニ認メネバナラス(註一三)。然シ乍ラ、Troeltschモ言ケル如ク(註一四)、初期カルヴイン主義ト後期カルヴイン主義トノ間ニハ其ノ内容ニ於テ大イニ相違スルモノガ存スルコトヲ忘レテハナラス。我々ノ注目スルモノハ發展ノ頂ニ達シタル後期清教のカルヴイン主義デアル。我々ハ此レダケノ注意ヲ以テ暫ク神學の考察ニ向フ。目的イ言フマデモナク、主トシテ經濟的合理主義ノ一基礎タル、在家的禁欲思想ヲ解明スルコトニ在リ、傍ラ經濟生活ノ合理化ニ大イナル關係アル猶太教ト清教主義トノ内面的關係ヲ裏付ケルコトニ存スル(註一五)。

カルヴイン主義ヲ一貫スル特徴的教理ハ『特選説』デアル。凡ソ宗教的救済感ハ、自己ノ價值ヲ全然否定シ、總テヲ客觀的ノ力ニ歸スル感謝ノ情ト結合シテ居ル。罪惡感トノ大ナル戰ヒヲ鎮メ、其ノ重荷ガ除カレタト云フ悦バシキ保證ノ感情ハ、救済感ニ伴ツテ居ル。而シテ其ノ場合、此ノ未曾有ノ天寵ガ、何ラカノ自己ノ力ニ、例ヘバ自己ノ行爲、信仰、又ハ意欲ニ、歸シ得ルモノデアル、ト云フヤウナ誇リガマシキ感ジハ起ツテ來ナイ。Lutherガ『基督者ノ自由』(註一六)ヲ書キ得タ彼ノ宗教的天才ノ頂點ニ於テスラ、彼ニハ尙ホ神ノ秘密ノ決定(heimliche Ratschluss)ガ彼ノ宗教的恩寵ノ絶對的ニシテ普遍的ナル底ヒ知レザル源泉トシテ最モ強く感ゼラレタノデアル。然ルニ彼ハ後ニ至ツテ、實際的ナル教會政治家トシテ責任アル地位ニ立ツテカラハ、形式的ニハ此ノ思想ヲ棄テナカツタケレドモ徐々ニ遠ザケルヤウニシ、Melancthonハ故意ニ之ヲAugsburgノ告白ニ入レナカツタ。而シテ

ル―テル主義ノ教父達ニハ、恩寵ハ失ハレ得ルモノ(amissibilis)デアルト云フコト、又懺悔ノ心ヲ以テ  
スル謙遜ト神ノ言葉ニ對スル忠實ナル信賴ト聖典トニ由ツテ恩寵ハ再ビ新シク獲ラレルモノデアルト  
云フコト、此レガ教理的ニ成立シタ。之ニ反シテ Calvin ニ於テハ『畏ルベキ命令』(decretum horribile)  
ハ Luther ノ如ク體驗セラレタノデハナク、思索セラレタノデアルカラ、思索的結論ガ展開スレバ  
ルホド、神ニノミ向ヘル宗教的興味ガ昂進スル。斯クシテ神ガ人ノ爲メニデハナク、人ガ神ノ爲メニ  
存在スルノデアツテ、又總テノ現象ハ神ノ榮ノ現ハルル爲メニノミ行ハルル、ト云フコトニ成ル。神  
ノ主權的命令ニ對シテ地上ノ正義ノ尺度ヲ置クコトハ無意味デアリ、又神ノ權威ヲ冒瀆スルコトニ成  
ル。唯神ノミガ自由デアツテ、何ラノ法則ニモ支配サレナイ。又神ノ決定ハ神ノ旨ニ適フ者ニノミ示  
サレルノデアル。人ハ永遠ノ眞理ノ斷片ヲノミ窺ヒ得ルニ過ギナイ。總テノ他ノ事柄、例ヘバ我々ノ  
個人的運命ノ意義ノ如キコトハ、其レヲ探測スルコトハ不可能デアリ、又不遜デアルトコロノ暗キ秘  
密ニ包マレテ居ル。我々ノ知り得ルコトハ、唯一部ノ人間ノミガ祝福サレテ居リ、他ノ者ハ放棄サレ  
テ居ルト云フコトデアル。人間ノ功績又ハ罪科ガ其ノ運命ヲ決定スルトカ、永遠ノ古カラ定メラレタ  
ル神ノ絶對的自由ニ基ク決定ガ人力デ動カシ得ルトカ、云フコトハ考ヘ得ラレナイ。斯クシテ、カル  
ヴィン主義ニ於テハ、天ニ在リテ罪人ノ悔改ヲ喜ビ給ヒシ新約聖書ノ神、『天ニ在ス父』ハ、各人ノ  
理解カラ離レタル超越的存在トナリ、神ノ決定ハ永遠ニ動カスベカラザルモノトナリ、神ノ恩寵ハ神  
ガ與ヘシ者ニ取ツテハ失ハレザルモノデアリ、神ガ拒ミシ者ニ取ツテハ達シ難キモノト成ツタ。

此ノ特選說ハ悲惨ナル非人間性ノ中ニ未ダ嘗テ見ザル個人ノ內的孤立ノ感情ヲ起シタ。人々ハ皆定

メラレタル自己ノ道ヲ獨リ淋シク迪ラネバナラス。此ノ人間ノ内的孤立化ハ、一方ニ於テハ、總テノ被造物ガ其レ自身全然無價値デアルト云フ教説ト結合シテ、客觀的文化財及ビ主觀的信仰ニ存スル感覺的感情的要素ヲ、其等ガ救ヒニハ不必要デアリ、感傷的妄想ト偶像崇拜トノ促進者デアル、トノ理由ヲ以テ、絶對ニ否定スルトコロノ所謂清教主義的態度ニ根據ヲ與ヘ、一切ノ感覺文化(Sinnkultur)ヲ一般ニ全然忌避セシメタ。然ルニ、他方ニ於テ、此ノ人間の内的孤立化ハ、今日モ尙ホ清教徒的經驗ヲ經來レル國民ノ國民性ノ中ニ現ハル、如ク、後ニ啓蒙時代ニ存セルモノトハ全ク異ナレル非夢想の、悲觀的色彩ヲ帶ベル個人主義ノ根據ノ一ヲ形成シタ。即チ神ヲ信賴スル餘リアラユル他ノモノヲ排斥シ、最モ親シキ友ノ信ニ對シテスラ疑ヲ懷クコトニナツタ。斯クテカルヴィン主義ニ於テハ秘密懺悔ノ制度ハ消滅シタ。信者ト神トノ交通ハ眞ノ教會ニ屬シテ救ハル、コトヲ必要トスルニモ拘ラズ其レハ實ニ深キ内的孤立化ニ由ツテ完成スルモノデアツタ(註一七)

此ノカルヴィン主義ガ如何ニシテ社會組織ノ中ニ疑フベカラザル優越ノ地位ヲ占メ得タカハ謎ノヤウデアル。然シ其レハ、餘リ人ノ氣付カナイトコロデハアルガ、實ニ Calvin ノ神觀ニ基因スル。神ハ世界ヲ支配シ、世界ハ神ノ榮ヲ現ハス爲メニ存在シ、基督者ハ各自己ガ持場ニ於テ其ノ使命ヲ果スコトニ由ツテ、神ノ光輝ヲ増スヤウニ定メラレテアル。神ハ生活ノ社會的構成ガ神ノ命令ニ從ツテ其ノ目的ニ應ズルヤウニ行ハル、コトヲ欲シ給フ故ニ、基督者ガ私ナキ社會的行爲ヲナスコトヲ求メ給フ、信者ノ社會的勞働ハ強大ニシテ光輝ニ充テル神ニ於ケル勞働デアル。總テ此ノ世ノ生活ニ役立つトコロノ職業勞働モ亦此ノ性質ヲ帶ビテ居ル。既ニ Luther ニ於テモ、分業的職業勞働ガ博愛ノ觀念



カラ派生スルモノトサレタガ、Calvinニ於テハ其ノ點ガ一層明確ニ成ツテ其ノ倫理的體系ノ一特徴ヲナスニ至ツタ。

博愛ハ、被造物タル人間ノ名譽ノ爲デハナク、神ノ光榮ノ爲メデアルカラ、第一ニ自然法 (lex naturalis)ニ由ツテ與ヘラルトコロノ職業任務ノ遂行ニ現ハルル。其場合、博愛ハ特ニ物件的・非人格的性質ヲ帶ビ、人間ヲ圍メル大世界ノ合理的構成ニ役立つモノトナル。此ノ觀點ガ、後ニ述ブル如クカルヴィン主義ノ政治的・經濟的合理主義ニ對スル重要ナル點デアリ、茲ニカルヴィンの倫理ノ功利主義的性質ノ源ガ存シ、又カルヴィンの職業觀念ノ特性ガ生ズル。

進ンデ我々ニ取ツテ重要ナル問題ハ、現世ノ生活ニ對シテ彼岸ノ生活ガ尊重セラレタ時代ニ於テ、『特選説』ガ如何ニシテ保持セラレ得タカト云フコトデアル。各人ハ自己ガ救ハレテ居ルコトヲ確認スルコトヲ願フ。其ノ驚クベキ豫定ヲ如何ニシテ認識スルカ。Calvin自身ニ取ツテハ此ノコトハ問題デハナカッタ。彼ハ自ラ神ノ武具ヲ纏ヘルコトヲ感得シ、自己ガ恩寵ノ中ニ浸リツツアルコトヲ確信シテ居タ。從ツテ、各人ガ其ノ選マレタルコトヲ如何ニシテ確認シ得ルカノ問題ニ就テモ、彼ハ唯神ノ決定ヲ畏レ、眞ノ信仰ニ由ツテ撓マズ基督ニ信賴スルコトヲ以テ満足スベキデアル、ト答ヘルノミデアル。彼ニ取ツテハ、原理上、人間ノ行爲カラ判斷シテ、其ノ人ガ選マレテ居ルカ、棄テラレテ居ルカヲ知ルコトガ出來ナイ。其レヲ試ミルハ神ノ秘密ヲ冒サントスル不遜ノコトデアル。現世ノ生活ニ於テハ選マレタル者モ棄テラレタル者モ外的ニ區別スルコトハ出來ナイ。又選マレタル者ノ一切ノ主觀的經驗ハ棄テラレタル者ニ就テモ可能デアル。選マレタ者ト棄テラレタル者トノ唯一ノ差異ハ最後

マデ忍ブ信賴の信仰ノ有無ニ存スル。選マレタル者コソ永遠ニ存在スル神ノ見エザル教會デアル。

固ヨリ亞流カルヴァイン主義者、殊ニ普通信者ノ多數ハ此ノ信仰ヲ持ツテ居ラナイ。彼等ニ取ツテハ『救ノ徴』(certitudo salutis)ガ恩寵ノ認識可能性ト云フ意味ニ於テ考ヘラレ、特選說ヲ奉ズル場合ニモ『教會』(ecclesia)ニ屬セルコトヲ認メ得ル標識ノ存在ハ確實デアツタ。此ノ點ニ就テハ敬虔主義ノ發展ノ中ニモ大ナル社會的效果ヲ現ハセルモノガアルノデ、例ヘバ晚餐式ニ列スルコトノ社會的價值ノ如キモノデアル。斯クシテ正統的カルヴァイン主義ノ原理的敎說ハ保守シ得ラレナイコト、成ル。茲ニ於テ、特選說ガ解釋シ直サレナイ限り、次ノ敎職の忠告ガ必要ト成ツテ來ル。即チ先ヅ自己ヲ選マレタル者ト確信シ、凡ユル疑惑ヲ惡魔ノ仕業デアルト考ヘルコトガ勸メラレル。斯クシテ Luther ガ、悔ユル心ヲ持ツ信仰ヲ以テ神ニ信賴スル時ニ恩寵ガ加ハル、ト約束シタコロノ罪人ノ代リニ、我々が今日、資本主義的英雄時代ノ鐵石心ヲ有スル清敎的商人ノ中ニ例ヲ見出ストコロノ、自信ニ富メル『聖徒』ガ育テ上ゲラレタ。同時ニ又其ノ自信ヲ獲ル爲メニ最モ良キ手段トシテ間斷ナキ職業勞働ニ從事スルコトガ敎ヘラレ、其レノミガ宗教的疑惑ヲ避ケシメ、恩寵ノ確證ヲ與ヘルモノデアルト説カレタ。

然ルニ世俗的職業勞働ガ斯クノ如キ手段ト成リ得ルコトハ、『義トセラルルコト』ノ信仰ノ性質ニ最モ明カニ現ハレテ居ルトコロノ宗教的感情ノ最モ深キ特性ニ其ノ根據ヲ有スル。ルーテル主義ガ追求スル最高ノ宗教的體驗ハ神トノ神祕ナル合一(Unio Mystica)デアル。此ノ神的感情ハ性質上神祕主義者ノ冥想ト同一デアル。神祕家ノ冥想ノ特徴ハ受動的、感情的、內的性質ニ存スルガ、ルーテル主

義ニ於テハ其レニ原罪の無價值性ノ感ガ結合シ、其處ニ罪ノ赦ニ不可缺ナル謙遜ト單純トヲ保ツベキ日日ノ悔改 (poenitentia quotidiana) ガ必要トナツタ。之ニ反シテカルヴイン主義ハ此ノ謙遜ト單純トニ向フ氣分の信仰ヲ初メカラ認メナイ。人間ノ靈ニ神のナルモノノ入り込ムコトハ、神ガ一切ノ被造物ヲ絶對的ニ超越セルコトニ由ツテ否定セラルル。曰ク、「有限ハ無限ヲ容レ得ズ」(limitum non est capax infiniti) ト。カルヴイン主義者モ信仰ニ由ツテノミ (sola fide) 救ハルルコトハ眞ナリトスルガ、總テ單ナル感情ト氣分トハ如何ニ深刻デアツテモ虛妄ナルガ故ニ、信仰ハ必ず客觀的ニ確證セラレネバナラヌトスル。

此ノ點ニ於テカルヴイン主義ハカソリツク主義ト接觸スル。然シカソリツク教徒ニ取ツテハ此ノコトカラ贖罪ノ聖典ノ必要ガ生ジ、カルヴイン主義者ニ取ツテハ在家的活動ニ由ル實際的驗證ノ必要ガ生ズル。即チ新教徒ニ取ツテハ信仰ハ實證的の信仰 (fides effectus) デアラネバナラヌ(註一八)。

更ニ進ンデ、如何ナル結果ニ由ツテ正シキ信仰ヲ確認シ得ルカト問ヘバ、再ビ、神ノ榮ヲ現ハスベキ生活ニ由ツテ、ト答ヘラルルデアラウ。而シテ如何ナル事ガ神ノ榮ヲ現ハスカハ神ノ意志カラ出ヅルコトデアツテ、或ヒハ直接ニ聖書ノ中ニ啓示セラレ、或ヒハ間接ニ自然的世界秩序 (lex naturae) ノ中ニ表現セラレル。特ニ自己ノ精神状態ト聖書ニ示サル古ノ聖徒ノ精神状態トヲ比較スルコトニ由ツテ自己ノ恩寵状態ヲ管理シ得ル。此ノ思想カラ清教主義ノ中ニ舊約的・猶太的精神ガ入り込ムコトニ成ツタコトハ頷カレル。

唯ニ選マレタル者ノミガ實際ニ實證的の信仰ヲ有スル。彼ノミガ再生 (regeneratio) ト其レカラ起ル

全生命ノ聖化 (sanctificatio) トニ由ツテ眞ニ善キ働キヲナシ、神ノ榮ヲ現ハシ得ル。而シテ彼ハ、原理上彼ノ行爲ガ神ノ榮ヲ現ハス爲メニ彼ノ中ニ存スル力ニ基クコト、即チ神ニ求メラレ神ニ動サルルコトヲ自覺スルガ故ニ、此ノ信仰即思慮ノ自覺ガ追求スルところノ最高ノ善ヲ追求スル(註一九)。ヨシ善行ハ祝福ヲ獲ル手段トハナラズトモ、選マルルコトノ記號トシテ缺クベカラザルモノデアル。此ノ意味ニ於テ善行ハ屢々直チニ祝福ニ不可缺ト考ヘラレ『救ノ寶』(possessio salutis) ト結び付ケラレル。然ルニ此ノコトハ實ニ、神ハ自ラ助クル者ヲ助クルコト、即チ自己ノ祝福——正シク云ヘバ祝福ノ自覺——ヲ自ラ造リ出スト云フコトヲ事實上意味スル。然シ乍ラ此レハ、カソリツク主義ニ於ケル如ク功德ニナルベキ個々ノ行爲ヲ徐々ニ蓄積スルコトニアラズシテ、アラユル時ニ於テ選マルルカ棄テラル、カノアレカコレカノ前ニ立ツテ居ルトコロノ系統的自己統御デアル。此處ニ我々ハ我々ノ考察ニ於ケル甚ダ重要ナル點ニ達スル。

カルヴイン主義ハ一定ノ宗教的思想カラ生ズル論理的結論ト心理的結果トガ中和セラレテ現ハレタ特殊ノ實際的宗教的態度デアル。特選説ハ論理的ニハ宿命説ヲ生ズルガ、心理的ニハ驗證思想ヲ起ス故ニ結果ハ非宿命的態度ヲ探ルコトニ成ル。其レ故ニカルヴイン主義者ガ自己ノ教義ヲカソリツク教徒ノ教説ト同視セララルコトニ反對スルコトハ正シイトシテモ、カルヴイン主義信奉者ノ日常生活ニ與ヘタ事實上ノ結果ヲ省ミルナラバ、ルーテル主義者カラ『偽信』(Verkeiligkeit)ノ非難ヲ蒙ルコトモ無理ナラヌコトデアル。恐ラクハカルヴイン主義ガ其ノ信者ニ與ヘタヨリモ著シキ程度ニ於テ道德的行爲ノ宗教的評價ヲ行ツタモノハ他ニ無イデアラウ。然シ乍ラ此ノ Verkeiligkeit ガ實際ニ重要ナル

點ハ其レニ應ズル生活ヲ特徴付ケ且ツ其ノ生活ヲ中世ノ一般基督者ノ日常生活ト區別セシムル性質ヲ有スルコトデアアル。中世ノカンリツク教徒ハ倫理的觀點カラ言ヘバ、所謂「手カラ口ヘ」ノ生活ヲ行ヒ、細心ニ傳統的義務ヲ盡スケレドモ、其レ以上ノ善行ハ常ニ具體的償罪ノ爲メニスルモノ、又ハ教職者ノ威化ニ由ルモノ、又ハ死後ノ生活ノ言ハバ保険料トシテ行フモノ、此等ノ個々ノ行爲ノ目的ナキ羅列デアアルニ過ギナイ生活ヲ營ム。之ニ反シテ、カルヴイン主義者ノ神ハ其ノ信者ノ個々ノ善行ニ於テデハナク、聖キ生活全活ニ於テ、即チ系統的ナル *Verkeelikeit* ノ中ニ活クル。日常生活ニ於ケル倫理的實踐ニ由ツテ全生活ヲ合目的、體系的、合理的ニ徹底セシメタ。實ニヤ第十八世紀ニ於ケル清教的思想ノ最後ノ大ナル復活ノ代表者ガ *Methodist* (法式主義者) ノ名ヲ負フモ不思議ハナイ。其レハ恰モ第十七世紀ニ於ケル其ノ精神的先驅者達ガ大陸ニ於テ *Präzisiert* (正確主義者) ノ名ヲ負ハセラレタルト同様デアアル。蓋シ如何ナル時、如何ナル行爲ニ於テモ、全生活ノ意味ヲ根本的ニ變革スルコトニ於テノミ、思籠ノ作用ハ人々ヲ自然狀態(*status naturae*)カラ恩寵狀態(*status gratiae*)ニ高メルモノトナル。聖徒ノ生活ハ一ノ全然超越的ナル目的即チ祝福ニ向ツテ居ル。サレバコン彼ノ此ノ世ニ於ケル生活ハ合理化セラレ、神ノ榮ヲ地上ニ顯ハスト云フコトニ支配セラレルノデアアル。未ダ嘗テ『總テハ偉ナル神ノ光輝』(*omni in majorem dei gloriam*)ト云フ觀點カラ斯クノ如キ誠實ガ現ハレタコトハナカッタ(註二〇)。不斷ノ反省ニ由ツテ導カルル生活ノミガ自然狀態ノ克服デアリ得ル。Descartes ノ有名ナル命題 "*Cogito ergo sum*" ハ斯クノ如キ倫理的着色ヲナシテ同時代ノ清教徒ニ採用セラレタ。此ノ合理化ノ傾向ガ新教徒ノ信仰ニ特殊ノ禁欲的色彩ヲ與ヘ、且ツカンリツク主義トノ

同似及ビ差異ノ基礎ヲ與ヘタ。

基督教の禁欲ハ其ノ最高ノ形式ニ於テハ既ニ中世ニ在ツテ合理的性質ヲ帶ビテ居タ。東方ノ修道院生活ト西方ノ修道院生活トノ對立セル世界史的意義ハ茲ニ存スル。後者ハ原理上無目的ナル遁世ト美ハシキ自己苛責トカラ解放セラレ、合理的生活ノ系統的構成ト認メラレ、即チ自然狀態ヲ克服シ、人間カラ非合理的の微動力ヲ除去シ、世俗ト自然トニ依ルコトヲ斥ケ、目的アル意欲ノ優位ヲ立テ、行爲ヲ確實ニ自ラ統御シテ倫理的の熟慮ニ服セシメ、客觀的ニハ修道僧ヲ神ノ榮ヲ現ハス勞働者ニ教育シ、主觀的ニハ修道僧ノ祝福ヲ確保スルコトヲ目的トシタ。此ノ絶對的自己征服ハ聖 Ignatius ノ『實行』(exercitia) 及ビ合理的の修道院ノ道德的の最高目標デアツタ如ク、清教主義ノ主要ナル實際的生活理想デア。清教徒殉教者ノ訊問ニ關スル報告ノ中ニ、貴族的の教職者ノ心亂レタル騷燥ガ、清教徒ノ冷靜ナル平和ト深キ輕蔑ヲ以テ對立サレテ居ルガ(註二)其ノ輕蔑ニコン今日尙ホ英米ノ『紳士』(Gentlemen)ノ中ニ最モ良キ典型ヲ見出シ得ルトコロノ reserve アル自己統御ヲ重ンズル心ガ見ユル。換言スレバ合理的の清教的の禁欲主義ハ、人々ヲ力付ケ、彼等ヲ鍛練スルトコロノ恒常的の動機ヲ、彼等ヲ浮薄ナラシメルトコロノ偶發的情念ニ對立セシメ、彼等ヲ眞ノ人格ニマデ教育スルコトニ努メル。總テ此等ノ重要ナル諸點ハ古キ修道院ト同似デア。何レノ場合ニ於テモ、全人類ノ法式的のナル秩序ヲ基礎トシテ偉大ナル世俗克服力ヲ生ズル、然シ他方ニ於テ、カルヴイン的の禁欲ト中世的の禁欲トノ差異モ明カデア。即チ其ノ差異ハ『福音的の團體』(consilia evangelica)ノ構成ヲ廢止スルコトニ存シ、古キモノノ純在家的の改造ガ行ハレタコトニ存スル、從來修道院ニ其ノ最高ノ代表者ガ與ヘタトコロノ最モ眞面目ナ

ル内の性質ヲ世俗的職業生活ノ内ニ現ハシテ、其處ニ禁欲的理想ヲ追求セシメタ。更ニ世俗的職業生活ニ於テ信仰ヲ驗證スルト云フ積極的性質ヲモ附加シタ。而シテ其ノ倫理ヲ特選說ニ根據付ケル故ニ出世間的ナル修道僧ノ精神的貴族主義ノ代リニ、此世ニ在リテ神ノ選ミ給ヘル聖徒ノ精神的貴族主義ガ生ジタ。即チ外觀上世ト離レタル中世的修道僧ニモ勝リテ、棄テラレタ者トハ永遠ニ超ユベカラザル物凄キ裂隙ニヨリ分離セラレタル聖徒ノ貴族主義ガ起ツタ。歴史的ニ重要ナル『生得權』(birth-right)ノ思想ハ此レニ由ツテ育テ上ゲラレタ。此ノ裂隙ハ驚クベキ銳サヲ以テアラユル社會的感情ノ中ニ刻ミ込マレタ。何トナレバ聖徒達ハ隣人ノ罪ニ就テ、寛容ナル救濟トカ自己ノ微力トカヲ意識セズ、却ツテ棄テラレタル記號ヲ帶ベル神ノ敵トシテ彼等ヲ憎ミ輕ンジタカラデアアル。斯クノ如キ分離感ガ激シクナルト共ニ諸種ノ宗派ガ形式セラルルニ至ルハ自然ノ數デアアル。カノ十七世紀ノ獨立派(Independents)ノ場合ノ如ク、神ノ榮ヲ現ハス爲メニ棄テラレタル者ヲモ教會ニ由ツテ法律ノ下ニ身ヲ置カシムルコトヲ要求スル純カルヴイン的信仰ガ衰ヘテ、神ノ群ノ中ニ再生セザル者ガ存在シテ聖典ニ與カルコトハ神ノ不名譽デアルトノ思想ガ盛ンシナルト、益々門派分立ノ傾向ガ大ニナル。又新シキ門派ガ造ラレナイ場合ニデモ、再生セル者ト再生セザル者トヲ分ツニ、聖典ニ列シ得ルト得ザルトニ區別スル如キ憲法制定ガ行ハレタ。

禁欲的生活ハ固ヨリ聖書ニ由ツテ確固タル規範ヲ與ヘラルル。カルヴイン主義ノ所謂『聖書中心』(Biblicrairie)ニ於テ重要ナルコトハ、舊約聖書ガ新約聖書ト同様ニ權威ヲ持ツテ居ルコトデアアル。信者ニ對シテ一ノ律法ガ存在スル、其レハ理想的ニシテ全ク到達シ難キ然シ乍ラ常ニ妥當スベキ規範

デアル。是レ本來律法服從カラ解放セラレテ居ルコトヲ信者ノ特權ト解セルル一テ爾主義ト正反對デア  
ル。人々ハ平靜ナル希伯來人ノ智慧ヲ全生活ノ中ニ感得シタ。清教徒ニ由ツテ最も多ク讀マレタ者ハソ  
ロモンノ箴言ト詩篇トデアアル。茲ニ合理的性質即チ信仰ニ存スル感情的要素ノ克服ガ舊約聖書ノ影響  
ヲ大イニ受ケタルコトヲ知り得ル。此舊約的合理主義ニ平民的ナル傳統ガ伴ヒ又預言者詩人ノ重要ナル  
感情及中世ニ現ハレタ感情的要素ヲ經テ、最後ニ成立シタモノガ、カルヴイン主義ノ禁欲思想デアアル。

新教的禁欲生活ニモ舊教的僧庵生活ニモ共通ナル倫理的生活ノ系統化ハ日記ニ具體化サレタ。唯カ  
ソリツク主義ニ於テハ日記ハ懺悔ノ目的ヲ完成スル爲メニ、罪・誘惑・精進等ノ事件ガ記入表示セラ  
ルノデ、牧師ガ其レニ由ツテ信者ヲ指導教誨スル助ケトスルモノデアアルガ、カルヴイン主義ニ於テハ  
信者ハ日記ニ由ツテ自ラ脈ヲ取ルコトニナルノデアアル。有名ナルモノハ Franklin ノ表示的統計的  
テ記帳デアアル。更ニ Bunyan ニ由ツテハ、古代、中世ヲ通ジテ著シキ思想ナル神ノ記帳ト云フコトガ  
沒趣味ナル程度ニ高メラレ、罪人ト神トノ關係ガ顧客ト商人トノ關係ニ比較セラレル。斯クテ清教徒  
ハ自己ノ行爲ヲ管理スル如ク、神ノ行爲ヲモ管理シ、生活ニ現ハルル個々ノ攝理ニ由ツテ神ノ勘定ヲ  
計算スル故ニ、純カルヴイン主義ニ反對ニ、清教主義ハ、何故神ガ或ル攝理ヲ行ツタカ、ヲ説明シ得  
ル。人類ヲ祝福スルコトハ神ノ營業行爲ノ性質ヲ帶ビルニ至ツタ。 Baxter モ亦、見エザル神ヲ説明  
シテ、商人ガ遠隔ノ見エザル顧客ト通信ニ由ツテ取引シテ利益ヲ獲ル如ク、人モ見エザル神ト祝福ト  
之ヲ取引ヲ行ツテ價アル眞珠ヲ獲ルコトガ出來ル、ト言ツタ(註三二)。斯クノ如キ商業的の比喩ハ實ニ清  
教主義者ノ一特徴ヲ示スルモノデアアル。